

目標達成計画票(事業所記入)

作成日: 平成 22 年 4 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなかないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 3 | 認知症に対する理解は、地域に浸透はしているものの、地域の状況により温度差があることから、十分な支援が得られていない。 | ①地域の行事などを事前に入手し、積極的に出前PRを実施する。②地域の社会資源を活用する。 | ①運営推進会議による情報の収集②地域ボランティアの積極的受け入れ。③管内小・中学生の研修の受け入れ。 | 3ヶ月 |
| 2 | 8 | 権利擁護に対する職員、利用者家族の理解不足もあり、支援体制に不備が見られる。 | ①権利擁護、成年後見制度の内部研修を実施する。②家族会議などで権利擁護制度などの必要性をPRする。 | ①全体ミーティング時における全職員に対する研修の実施②家族会議等における制度の理解と事例の報告 | 3ヶ月 |
| 3 | 19 | 入居者の家族環境の違いもあり、面会が極度に少ない人もいる。 | ①面会の少ない家族に対しては、面会の頻度を高めてもらうようお願いする。②家族代表の運営推進会議委員の活用を図る。 | ①家族会議などで面会の必要性をPRする。②面会の少ない家族に対しては、ダイレクトメール作戦を展開する。③運営推進会議の席上で家族代表に協力を呼び掛ける。 | 6ヶ月 |
| 4 | 49 | 毎月、月・金曜日を「買い物の日」と定め、定期的に外出の機会を設けているが、利用者が希望する外出については、業務の都合上十分とは言えない。 | 「買い物の日」を活用した外出機会のほか、利用者の健康状態などに応じた自由外出機会を増やすようにする。 | 利用者の自由外出の機会を増やすため、各ユニットごとに「外出担当者」を指名して利用者の外出希望を把握し、希望者には、その人の健康状態などを考慮の上業務に支障のない限りにおいて外出支援を行う。 | 3ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。